

平成29年度第1回 田辺市障害者施策推進協議会 会議録

1. 開催日時 平成29年7月31日 月曜日 午後7時30分～午後9時15分

2. 開催場所 田辺市民総合センター 1階 機能訓練室

3. 出席委員 委員27名中 出席23名 欠席4名

4. 事務局 障害福祉室 山田室長、山崎主任、梶垣事務員

5. 傍聴者 なし

6. 内 容

(1) 開 会

(2) 挨拶 保健福祉部 木村部長

(3) 会長選出

(4) 議 題

1. 平成28年度の計画実施状況について

①障害者計画の実施状況について

②障害福祉計画の実施状況について

2. 第3期障害者計画及び障害福祉計画の策定について

①障害者計画及び障害福祉計画の概要について

②アンケート調査実施の報告

③策定スケジュールについて

7. 議題に対する質疑応答

議題1. 平成28年度の計画実施状況について

①障害者計画の実施状況について

②障害福祉計画の実施状況について

●T委員

資料中、決算額が記入されている項目と、ゼロや空白の項目があるのですが、これはどういうことですか。

○事務局

決算額が記入されている項目は、例えば啓発物品や委託料、材料費など、事業に要した費用を明確に示すことが出来る場合になります。特段の費用が発生しない場合、主には職員の人件費だけでできた事業ということでご理解いただければと思います。

決算額がはいっていても事業の実績としては計上できる内容です。

●T委員

知的障害者等意思疎通支援者派遣事業というのがありますが、どういうことをされているのですか。

○事務局

知的障害及び精神障害のある方が、たとえば病院等で診察を受ける場合、うまく自分の気持ちを伝えられず、また、医師の説明の理解も難しい場合に双方の間に立っていただけの方を派遣する事業です。他にも学校の参観日や役所の手続きなどに同行するといったこともあります。

●Y委員

今回、新しい計画を策定するわけですが、計画と実績の差についてはどう捉えていますか。差が生じるのは通常とは思いますが、施策としてどう考えていくのですか。

○事務局

障害福祉計画については3年間という比較的短い期間設定となっていますので、その時々々の社会情勢については比較的反映できた計画といえるかと思います。また制度改正等も行われるため国のほうで3年という期間設定となっているのかとも思います。

計画に満たなかった項目については、毎年実績を見ていく中で考察を加えながら次の三年の計画の中で見直しを図るといった形で、乖離の少ないような計画を策定する方向ですすめていきたいと考えています。

●Y委員

差が生じるということは、意味があると思いますので傾向をしっかりと捉えて計画作りを進めていただきたいと思います。

議題2. 第3期障害者計画及び障害福祉計画の策定について

- ①障害者計画及び障害福祉計画の概要について
- ②アンケート調査実施の報告
- ③策定スケジュールについて

●F委員

今回、障害児福祉計画も含めて策定するということですが、アンケートでは障害児のことは聞かないのですか。

○事務局

障害児向けの用紙は作成していませんが、年齢や、通学の状況、利用しているサービスの内容などから障害児ということが判る設問になっており、ニーズも把握できます。

●F委員

設問が、就労に関する事などが多く、障害児には回答しにくい気がするのですが、これは感想です。

●N委員

地震や津波などの大規模災害が発生したとき、どこに避難しますか。という問いについて、選択肢が指定避難所とか福祉避難所等になっているが、発生直後は、一時避難で身を守る行動をとり、その後指定避難所等に移ることとなるので、意味がわかりにくい。

○事務局

全国的に指定避難所とか福祉避難所が足りていないという状況がありましたので、この問いを設けました。避難の方法としては先ず一時避難、そして避難所へというのが正しい考えです。

●Y委員

障害の状況によってアンケート内容が異なるというのは、理解できるのですが、例えば知的障害で入院されている方がいた場合、違いますよね、項目が。どこまで差があって、どこまで浮かび上がらせたいのか、差の問題ってすごく大事な気がするんですけど。

○事務局

重要な質問を頂いたと思います。今回の設問の中にも、病院に入院というような項目も設けておまして、入院中の方のニーズも把握できるようにしております、アンケートを入院中の方にどれだけ配ったかということとはわかりませんが、クロス集計という方法により必要な支援でありますとか傾向が見て取れると考えております。

●M委員

災害時の避難先を問う質問で、「自宅に留まる」という選択肢がありますが、本当は避難所に行きたいが自宅に留まる方もいると思います。この部分の掘り起こしを今後もっとしていく必要があると考えているのですが、避難所に関する課題は他の設問でも浮かび上がってくるのですが、いわゆる避難所でないところに避難するという理由を掘り下げること、避難所運営の仕方や対応策が浮かび上がってくると感じます。

○事務局

本当に必要な、避難所での支援ということは把握していかなければならないことは、おっしゃるとおりです。「避難所における生活や支援について不安に思うことはありますか」という設問も設けておりますが、アンケートという性質上、全てを網羅する事はかなり難しいと考えます。そういった点で、アンケートのほか、本協議会、ヒアリング調査などの意見聴取を通じて市民のみなさんの意向を反映させていきたいと考えております。

●T委員

アンケートをざっと見て、障害を持っている方がどれだけ自分の意思で答えられるのか、家族が説明するにしても内容が多すぎるので本人も家族も疲れると思います。

○事務局

アンケートの特性上、そういったご意見を頂戴する事もございます、非常の心苦しいところではあるのですが、回答が容易な方とそうでない方がいらっしゃるということは承知した上で集計作業を行うこととしております。先ほどもありましたがアンケートばかりが意見聴取の機会ではございませんので、アンケートで届けられない意見を違った形で届けていただければと思います。

●会長

アンケートについては、すでに発送しているものなのですが、自宅に留まるということについては、やはり避難施設に行けないという前提があるということが盛り込まれればいいのかと思います。